

編集室から

師走を前にして、早くも事務所の近くのSCに、鏡餅が並び始めました。年を仕舞い、新年を迎える準備の双方が重なるこの時期。気忙しくなると同時に、この一年、何を為したのだろうか、振り返るころでもあります。

流されやすいのが、人の常。一年の計は元旦にありと申しますが、その計画も忘れ果ててしまっは、次の肥やしにできる振り返りになるはずもなく、ただただ反省するのみ、です。

地域の再生ビジョンを描いて、求められるプロジェクトを組み立て、推進していくというお志事をさせて頂いているのですが、果たして自身のビジョンは如何に？ということで、夢を描いて、それが叶うまで、どれくらいの年月が流れてきたのか、振り返ってみました。

まちづくりを志したのが12歳、叶ったのが15年後の27歳。田舎暮らし・自給農家を願ったのが13歳、そのイメージをイラストに描いていた通りの村落に生まれ育った家内と知り合い、結婚したのが10年後の23歳。まちづくりの夢に疑問を持ち将来を悩み始めのが31歳、もがきながら二度目に起業したのが6年後の37歳。自社のビジネスモデルに疑問を持ち始めたのが44歳、現在の体制に落ち着いたのが6年後の50歳。全く新しいことにチャレンジし始めたのが52歳で、こちらは未だ開花せず、来年で10年を迎えるも道半ば…。

といった感じで、だいたい6～15年で夢がカタチになっていました。ですが、齢を重ねるに従い、力まずに自分らしく振る舞えるようになり、おのずから人生が盛り上がるような潮流に乗っているような気もしています。

「波に乗っても、調子には乗るな。顎を引き締め、しっかり着実に歩いていくのだ」と、父の言葉を思い出しています。

善き年の瀬をお迎えくださいませ。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2021/12
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2021/12
(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

師 走



能登の郷土食「かぶら寿司」
復活プロジェクト
石川県かほく市にて
by hama

寄稿『新型コロナウイルス感染症 第十七報』

サンポート高松クリニック 井垣 俊郎

今月も原稿の締切りギリギリまで待ちましたが、日本の新型コロナウイルス感染はおさまったままです。北海道の動向に注意する必要はありそうですが、その他の地域では気味が悪いほど静まりかえっています。

ご存知のように、ヨーロッパでは感染が急速に再拡大しています。その詳しい状況が判れば我々の参考になることもできるのですが、マスコミが報道するのは暴徒化した市民の姿だけで、歯痒く思っていました。何かないかと探していたところ、偶然ピッタリ合った内容のブログに巡り会いました。ご本人に断りもなくですが、紹介させていただきます。

さいたま記念病院院長の永井秀雄先生が、病院のホームページに連載されている院長ブログ (http://www.saitamakinen-hor.jp/news_head/) の十一月十日版です。出典は、ドイツ雑誌社シュピーゲルだそうです。 <https://www.spiegel.de> を見てみましたが、ドイツ語は、やっぱり判りません。私なりに先生のブログを要約しましたが、ぜひ本物をご覧ください。山中伸弥先生もそうでしたが、この永井先生も医療関係者以外にも判りやすい内容でありながら格調の高い文章です。そして、これだけの内容を院長の激務をこなしながら数日おきで更新されているのにも驚かされます。世の中には、すごい

方は居るものです。今後時間もつけて、ぜひブログを読ませていただこうと思っています。

- ① イツ国内の感染者数は過去最高を更新しそうな勢いで増加中
- ② ドイツのワクチン接種率は六十歳以上が八十五・五%で十二・十七歳は四十二・八%
- ③ 現在の感染者は子供と若者が中心
- ④ 高齢者のフレックスルー感染は一人に二人程度と少ないながらも存在
- ⑤ 死者数は圧倒的に少なくなったが高齢者中心やはりワクチン未接種者が感染を拡大させ、免疫力の低下した高齢者が犠牲になるという構図になっているようです。日本に、いつ同じ事が起こっても全く不思議はありません。マスクと手洗いは日本のアドバンテージですが、それでも第五波までの感染拡大を防ぐことはできませんでした。三回目のワクチン接種に、大きな期待をかけるべきではありません。抗体価は、やがて必ず低下します。免疫力の弱い一部の人には、ワクチン接種を繰り返しても効果には限度があります。やはり、何度も言いますが、一刻も早くワクチン未接種者を一人でも減らしていくしか手はないと思います。



【プロフィール】

（いがき としお）金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。



濱の起業塾 三十一『概論⑭』

まだ駆け出しの頃の話である。地元、七尾市のまちづくりに関わっていた。数年の議論の末、万葉の頃から、天然の良港として栄えた港町であることを思い出し、その復権を図ろうというコンセプトが導かれた。青年会議所が日本に未だ事例がないフィッシャーマンズウィフ（漁師の波止場）という飲食・物販施設を核に、物流港だったのを観光港に変えようと提案した。今でこそ、道の駅が身近となったが、当時は、それすらも無かった。サンフランシスコのピア39や、モントレーなどの事例視察に数名が、飛んだが、自分も含めてほとんどの市民は、見聞きしたこともない。日本版としてもどのようなビジネスモデルが適合するかわからなかった。

そこで、案出されたのが、「イベントで疑似体験しよう」というアイディアであった。提案側も事業形態のテストマーケティングになるし、来客側も提案されているものが疑似体験され、認知度が高まる。イベントが第三回を迎えると同時に、施設が開業。観光客がゼロだった波止場に、年間九十万人が持続的に訪れる大成功事例となった。

この体験は、貴重だった。以来、イベントをテストマーケティングの場として取り組み、そこから得た知

見を、後の本格起業・開業に活かすと、リスク回避にもなると確信した。この視点をベースに、さらにイベントの回と、開催・参画側の意図すべき視点を深掘りすると、次のとおりである。

【イベントの使い方と起業活動】

- 一年目、仮説の実践(やってみる)
- 二年目、前年度の反省点を改善・改良
- 三年目、初年度の仮説を総括
- 四年目以降、このパターンを繰返すが、その際も、一〜三回、原初仮説の検証
- 四〜六回、原初仮説自体の改善
- 七〜九回、原初仮説の更なる改善
- 十回、原初仮説の総合検証

と捉えて企画・運営するならば、円滑な起業へ進むことも、イベント自体がマンネリ化することも防止できる。

また、この視点を開業後、日々の営業にも取り入れられることにも気づいた。

つまり、初日をイベントの一回目として、イベントの同様に毎日やると十日でワンクルーとなり、三十日で三回、回せることとなる。日々の積み重ね自体が仮説と検証の連続となり、ノウハウの蓄積となっていく。それを開業前からの取り組み姿勢として身に着けることができる点も、イベントをテストマーケティングの場として取り組む利点ではないかと思っている。

きただより86 弘前大学 地域社会研究会 上村 康之 『秋田県大館市のレトロな映画館「御成座」』

「あきたホリディパス」というJR東日本のおトクな切符がある。これは概ね11月から2月の土日祝日に利用ができ、秋田県内のJR線（県境付近の路線を除く）、秋田内陸縦貫鉄道、由利高原鉄道の普通列車が乗り放題で2,440円である。

秋田県北部の大館市。かつては鉱業で栄えたまちであるが、秋田犬（ハチ公）のふるさと、きりたんぼの本場に加え、昨今では駅弁「鶏めし」の花善がフランスのパリのリヨン駅に駅弁店を出したことが話題である。大館駅付近の御成町に「御成座（オナリ座）」という映画館がある。ここで11月に韓国映画の「白頭山大噴火」（2019）が上映され、主演がイ・ビョンホン。「アイリス」（2009）という韓国のテレビドラマのロケが田沢湖、角館、秋田市内など秋田県内各地でも行われたが、その主演俳優でもある。

そこで「あきたホリディパス」を使用し以前から関心のあった「御成座」に行くことにして、この2つが結びついた。通常、秋田～大館の乗車券は片道1,980円なので往復で1,520円の得である。映画館の入場料は1,300円なので賄えると踏んだ。

今回は御成座の話としよう。秋田県内にある映画館は秋田市、大仙市、能代市の館とこの大館市の御成座である。他の映画館はショッピングセンター等に併設されたシアターであるのに対し、御成座は昔ながらの映画館という建築物である。

御成座の開館は1952年、火事で1955年に焼失しすぐに再建し閉館が2005年。閉館後の2014年7月に現在の経営者であるご夫妻が再開した。

映画館の建物は築66年。映画館にはボランティアの方によるなつかしい手書きの絵の看板が掲げられてあった。かつてはどの映画館にも出演する役者の絵が描かれてあった。私の中学高校時代には青森市中心街に何軒か映画館があり、任侠映画や成人映画のどぎつい絵の看板が強烈な印象があった。スクリーンの劇場には200席。座席もいまのシアターのようなフカフカの座席ではなく、昔の国鉄時代の車両の座席のような薄く固いものである。冬季には劇場内に石油ストーブが4台あり、映画館のスタッフが灯油の給油を行っていた。スチーム、エアコンのような暖房装置はない。劇場の壁には、かつて上映された映画のポスターが貼られてある。まさに昭和を感じる映画館で手作り感があり、ほっこりと温かい雰囲気が出ている。

この「白頭山大噴火」は朝10時からの開演であったが、2本目の13時から「ハチとパルマの物語」という日ロ合作映画（2021）。パルマとはモスクワの空港で、1970年代に実際に2年間、主人を待ち続けた犬のことで、2019年には大館市でも撮影が行われている。当日は、お母さんと小さな子どもも何組か訪れていた。このように、地方ではあまり見る機会の少ない海外や最新の作品や地元ゆかりの作品まで上映されている。映画以外では落語の独演会が開催され、御成座の存続・運営を財政面から支援し地域の活性化を目的とした「御成座ラビッツ - 御成座を守る会」も誕生した。地方小都市で再生した映画館「御成座」の今後の展開が注目される。

参考文献

ジモコロ、ナカノヒトミ『「住居だと思ったら映画館だった」、なぜか経営まで引き継いだ家族』、2017年12月7日 <http://www.e-aidem.com>

『飲食業において新型コロナが残したもの(1)』 株式会社GARBAGE代表 川畠 嘉浩

1日の感染者数が東京だけで6,000人近く、死者数も30人を超えた日もあった新型コロナの猛威が、その3か月後には東京では1日あたりの感染者数が10人台という、ワクチン効果だけでは説明ができないほどの落ち着きを見せています。この1年半はコロナばかりで、コロナビールの輸入元には申し訳ないけど当分耳にしたくない言葉です。

まだまだ当然第六波の危険性などをはらんではいませんが、ワクチン供給先の多様化や治療法の進化などから、以前のような医療現場の崩壊のようなものは日本では起こりにくいと考え、現段階を一旦大きな枠組みでの新型コロナの導入末期ととらえ、僕なりの飲食業界に与えた影響をまとめたいと思います。

1. 一次産業

特色ある商材をつくり、やる気のある生産者ほど中間業者を通さず、飲食店への直売やネットを活用した取り組みをしていました。

それが飲食業界における休業の長期化により、売り先のない野菜を生み出し、結果それをニュースをよく目にしたということです。

日本政策金融公庫による『令和2年度農業景況調査』によると

- ・農業景況 DI (▲24.9) は、前年実績から大幅に悪化 (30.9 ポイント低下)
- ・令和3年の景況 DI の見通し (▲32.4) は、令和2年実績からさらに 7.5 ポイント低下し、マイナス幅が拡大する見込み
- ・しかし「設備投資予定あり」の比率 (46.1%) は、前年から1.8 ポイント上昇し、「設備投資予定あり」と回答した先のうち、48.8%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答しており、担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえる。
- ・今後の経営方針は、「生産性向上に向けた設備増強」(56.1%) が最も多く、次いで「生産規模の拡大」(48.2%)、「新技術・新品種の導入」(47.0%)

JAのような業界全体の受け皿となる企業には個人農家の支援と自由裁量のバランスを維持できる仕組みづくりにシフトしていく時代ではないでしょうか。例えば、個人事業者が難しいプラットフォーム(マーケット)づくり、顧客の誘客などのインフラ提供で儲けるというのはどの業界でも当たり前のことです。

また今一次産業、特に水産業における重要な担い手が外国人実習生の存在です。しかし彼らの多くが母国に帰り来日の目途もたないというケースが多いようです。

かなり先鋭的な取り組みですが、大学生をカリキュラムに『地域問題解決』を必須科目として、地域の産業や問題解決にジョブチェンジしながら、1年間従事するというのをやってほしい。大学生だけでなく地域の企業も積極的に関与していただきたい。

あと世界規模での食糧事情で行きますと、いち早くコロナ禍から脱却し経済活動を再開させた中国での食料爆買いが大きなインパクトを与えています。そこに、各国中央銀行の金融政策の更なる緩和策でだぶついたマネーが食料関連の先物にも大量に流れ込み、結果輸入牛・豚肉はコロナ前から1.5～2倍もの値をつけ、その飼料となる大豆やトウモロコシは数倍の値上がりという状況です。

高齢化、人口縮小、デフレ経済圧力という三重もの足かせをうける日本商社が中国との買い付け競争に勝てるはずがありません。

僕が15年前に大学院での論文でも書き、ずっと恐れてきた『日本を潰すには兵器は必要ない』が現実のものになってきた気がします。(つづく)

『相模の国から ～大魔神のたび～ 』 奄美大島への旅 2021.11/3～6
神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

新聞紙面に旅行の広告が入り始めた。ふと目をやると奄美大島の世界自然遺産登録を記念するツアーの紹介があった。羽田からの往復航空チケット、3泊分の朝食付きホテルこれに4日間分のレンタカーまでついて7万円台。「行くしかないこれは」と直感した。というのも12年前に奄美市で市民対象に蕎麦打ち体験会と市民協働をテーマに研修会を開いたことがあり、その時の世話を焼いてくれた重信さんとのやりとりが続いていて、再訪する機会がないかといつも気にしていたからだ。

彼女が夫君と経営する設計事務所が内藤廣建築設計事務所と組んで設計された奄美市庁舎が今年完成した。これを拝見したく思っていた。ちなみに30年ほど前に見た内藤廣設計の鳥羽市にある「海の博物館」は日本文化デザイン賞や日本建築学会賞に選ばれ、見事に「海民」の暮らし文化がデザインされ、見た瞬間の感動は今でも忘れることはない。

早速奄美行きの予約を入れ11月3日12時には機上の人となった。乗ること2.5時間、深まり行く秋の季節と異なり、夏の名残がある奄美空港に降り立った。レンタカーを借りるなり、奄美パークを目指した。そこには田中一村の美術館が併設されているからだ。30年ほど前に日曜美術館で紹介されるや否や、その独特な画風が注目を集め2006年には榎木孝明演じる映画にもなり相当に知られるようになった。小生が住む浜松での上映はなく名古屋にまで見に行った。南国奄美の植物、鳥、魚を繊細かつ力強い花鳥画に描き、その独特の世界観は多くの人を魅了する。

この日は文化の日でオープン型のホールでは中学生による島唄のコンテストが開催されていた。裏声に瞬間的に込めるこぶしとファルセットを多用する独特の歌唱法、そして広い音域の特徴を持つ歌唱方法は容易に真似できるものではない。出演の中学生が発する唄の唸りそして三味線に圧倒される。島では民謡教室も目にすることがあり、この伝統芸能は確実に伝承されていくのであろう。この唄声と三味線一本持って世界中を旅してみたいと瞬時に思った。その実現のために島唄RIZAPがあれば入会したいものだ。



奄美パークには他に世界自然遺産たる島の紹介が多数ある。空港降りたら、まずはここに寄ることをお勧めしたい。

この後は前述の重信さんの自宅兼設計事務所を目指した。12年前にご自宅でヤギ汁をご馳走になったことは忘れられない。この時は静岡県庁職員であり、先輩の松本そば打ち師匠と手元の杉山が同行していた。

奄美での日程の打合せをまず。今夜は「なつかしゃ家」で会食、その後はアミノクロウサギに会いに行くナイトツアー。翌日は街中散策、大浜海浜公園そして、できたてほやほやの奄美市庁舎見学。その後は奄美テレビ放送、あまみエフエム出演、18:30からは、これまたできたばかりの市民交流センターでの講演、その後にご苦労さん会とのこと。結構なスケジュールになりそうだけど、面白いことには違いない。段取りされた皆様に感謝しつつ、身を任すことにした。

ホテルニュー奄美にチェックイン後に「なつかしゃ家」に向かう。そこには重信さんだけでなく、市の福祉政策課長の寿山さんと獣医の半田さんの姿があった。いずれも前回の訪問の時に世話になった方々だ。12年ぶりの再会だ。古民家を改築したこの店を切り盛りするは恵上イサ子さん。中学校長を定年退職後、奄美独特の食文化を次の世代に伝えたいと、料理人へ転身した。まず現れるは、旬の島食材を使った色とりどりの料理を乗せた竹ざるだ。そして見たこともない円形状のご飯。ハンダマご飯と言う。地元野菜の“ハンダマ”の茹で汁で炊いた紫が美しい。梅干しやシラスの佃煮を混ぜて味わいと食感をアップしている。次々と地元の滋味あふれる料理が出され、それを黒糖焼酎が後を追う。

会話も進み半田さんの話になった。中学生のころにハブに噛まれ大変な目にあい、二度とあってはならぬと高校から本土へ進学したとの話には驚いた。奄美におけるハブの存在は大きい、ある意味このおかげで山に人が入りにくいから自然が守られたとも言える。

帰り際に店主登場。前回打った蕎麦の話になり、「ならばうちの店で蕎麦打ってよ」との声に、酔いも回った小生に断る言葉は出てくる由も無し、即「打たさせていただきます。また来ます」と口にしてしまった。まだまだ、お楽しみは続きそうだ。ほろ酔いではあるが、この日の次はナイトツアーが待っている。

